

昨年到现在ワキ多発のおそれあり！ 消雪後は早急にほ場の排水対策を！

長岡農業普及指導センター
臨時稲作情報

電話 0258-38-2557

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

1 令和8年春のワキ発生の見通し

- 稲わらの春すき込みを行ったほ場は秋すき込みと比べ、未分解の稲わらが多く、ワキの原因となるメタンガスの発生が増大します（図）。
- 令和7年の稲わら秋すき込みの実施率は約4割で例年並でした。また、長雨の影響でほ場が乾かず、秋すき込みを実施したほ場も未分解の稲わらが多く残存しているとみられることから、例年よりワキが多発生するおそれがあります。

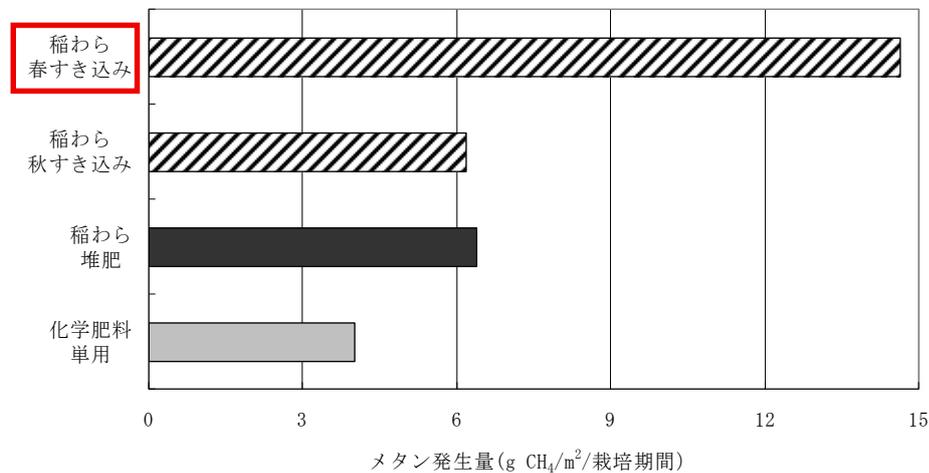


図 水田からのメタン発生量に対する稲わら処理の影響
(H5年 新潟農試)

2 ワキの防止対策(移植前まで)

- 消雪後は秋すき込みの有無にかかわらず、必要に応じて溝を掘るなどして早急に雪解け水の排水に努め、ほ場の乾燥を促す。



- 過湿状態で稲わらが土中に埋没すると分解が進まないため、耕うんはほ場が十分乾燥してから行う。

- 粘土質ほ場など、水はけの悪いほ場では代かき時にあまり練り過ぎないように注意する。

田植え後のワキ防止対策については今後の技術資料をご参照ください